

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日:令和 6年2月19日

事業所名:

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指導訓練室は70㎡を超えており、定員10名には十分な広さを備えている。	はい、15人	現状の中でその時最良の環境を整える。
	2 職員の適切な配置	指定基準を満たしている。	はい、14人 どちらともいえない、1人、	通常の施設のおよそ倍の指導員を確保しているため、継続して支援する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	施設はバリアフリー化されている。	はい、15人	とくにない。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	常に清潔に管理されており、子どもの活動に合わせた生活空間が確保されている。	はい、15人	現状の中でその時最良の環境を整えており、また無理強いしない支援を心掛ける。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	PDCAサイクルへの取り組みがなされている。		引き続きPDCAサイクルを継続する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者委員会の設置がなされている。		引き続き第三者による評価を継続する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	研修会への積極的な参加を促している。		WEB研修なども含め、研修会への積極的な参加を促したい。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメントやフェイスシートの作成から、個別支援計画への落とし込みをしている。	はい、15人	今後もアセスメントやフェイスシートの作成から、個別支援計画への落とし込みをする。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメントやフェイスシートの作成から、個別支援計画への落とし込みをしており、定期的な見直しを計画している。		いろいろな形の支援として5領域の支援を意識しており、今後も継続していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画には具体的な実践計画が記載されている。		毎日、振り返りを実施し、よりよい方法を模索している。具体的な計画は個別支援計画やデイ誌に記載する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画に基づいた支援が実施されている、が、見えにくい部分もあるので保護者会の実施を行いたい。	はい、15人	各個人ごとの話し合いや、モニタリングはできているが保護者の全体会議はまだできていない。今後の課題とする。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	モニタリング会議や日々の打合せの中で活動プログラムを構築しており、個別懇談会等で状況報告をしている。		モニタリング会議や日々の打合せの中で活動プログラムを構築している。5領域に合わせた課題設定やトレーニングを飽きないようにカリキュラムに工夫を凝らす。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	施設で利用できる時間の単位に応じてプログラムを工夫しているが、保護者に説明する予定。	はい、13人	施設で利用できる時間に応じてプログラムを工夫しているが、保護者会で明確にする予定。また、既に5領域におけるプログラムを支援計画に導入する。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	施設で利用できる時間の単位に応じてプログラムを工夫しているが、保護者に説明する予定。	どちらともいえない、2人	飽きずに楽しみながら自己肯定感が増えるよう支援しており、自信をつけて日常生活で他の児童と交流出来るよう工夫している。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	施設で利用できる時間の単位に応じてプログラムを工夫しているが、保護者に説明している。		施設で利用できる時間の単位に応じてプログラムを工夫しているが、保護者に理解頂く為に、月のお便りを発行を継続し、活動内容を報告する。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	終礼時にその日の振り返りと反省を行っている。		児童が一日の終わりに、自分を振り返り、発言できるよう支援し、自己肯定を高める事を継続する。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	モニタリングを継続的に行い、検証や改善の継続に努めている、また、記録を正確に残すことを継続している。		モニタリングを継続的に行い、検証や改善の継続に努めている、また、記録を正確に残すことを継続している。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	モニタリングを継続的に行い、検証や改善の継続に努めている、また、記録を正確に残すことを継続している。		毎日、午前中はモニタリングを継続的に行っており、検証や改善の継続に努め、記録を正確に残すことを決めている。結果として支援の質を高めた。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	地区の放課後デイサービスの会に所属している		相談支援事業の仲介により、複数の事業者や保護者との話し合いの場を設けており、その話合える場を増やしていく。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	情報共有の為、積極的に学校訪問を実施している。		今後も情報共有の為、積極的に学校訪問を実施し、また学校イベントへの参加を検討している。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現在はまだ移行される児童が少ない。		今後移行支援が必要になる場合には十分な情報提供を実施する。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修への積極的な参加を促している。		研修等への積極的な参加を継続的に促す。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	学校休業日には交流の為外出し、積極的に障害のない子供たちとの活動の場の提供をしている。	はい、6人、どちらともいえない1人、わからない8人	学校休業日に、お出掛けして交流するようにしている。計画については月のお便りて報告し、今後も継続する。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地区の放課後デイサービス等の団体に属している。	はい、6人、どちらともいえない1人、わからない8人	可能な限り他の事業所と連携し地区の放課後デイサービス全体で計画していきたい

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約する前に十分説明している。	はい、15人	今後も丁寧な説明を心掛けたい。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	個別支援計画を基に丁寧に説明している。	はい、15人	今後も丁寧な説明を心掛けたい。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	まだできていない。	はい10人、どちらともいえない3人、わからない2人	一部の保護者にしかまだできていない為、全員の保護者のペアトレを目指したい。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	理解頂けるよう情報を提供している。	はい、15人	今後は、話し合いの場を設けて情報の共有化を計り、支援の輪を広げたい。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	理解頂けるよう情報を提供している。	はい、15人	今後は、話し合いの場を設けて情報の共有化を計り、支援の輪を広げたい。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	まだできていない。	はい9人、どちらともいえない1人 わからない、2人、いいえ3人	今後は、話し合いの場を設けて情報の共有化を計り、支援の輪を広げたい。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情における窓口を設置している。	はい15人	今後も、苦情の窓口を開設し、適切に対応したい。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	できるだけ丁寧に、または工夫して伝達するようにしている。	はい15人	今後も、できるだけ丁寧に、また工夫して意思の疎通につなげたい。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	月一回のお便りを発行している。	はい15人	今後も、月のお便りを継続する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の取扱いについて丁寧に説明しており、最大限の注意を払っている。	はい、15人	個人情報の取扱いについて丁寧に説明し、最大限の注意を払う。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルを策定し、職員に周知徹底している。	はい、11人 わからない3人、どちらでもない1人	マニュアルを策定しており、保護者にも周知徹底する。また、ブログやホームページでも公開する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的な避難訓練を計画し、実施している。	はい12人 わからない、3人	マニュアルを策定しており、保護者にも周知徹底する。また、ブログやホームページでも公開する。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待研修を定期的に行っている。		マニュアルを策定しており、保護者にも周知徹底する。また、ブログやホームページでも公開する。また、研修を継続する。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	できる限り拘束はしないが、やむを得ない場合についても事前に十分説明し、了解を得るようにしている。		できる限り拘束はしない、やむを得ない場合についても事前に十分説明し、了解を得るようにする。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アセスメントやフェイスシートに基づき適切に対応している。		アセスメントやフェイスシートに基づき適切に対応する。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの作成を実施しており、共有している。		ヒヤリハットの作成の徹底。危機管理体制の拡充を目指す。